

雑草化する帰化植物(Ⅳ)

— 合 弁 花 —

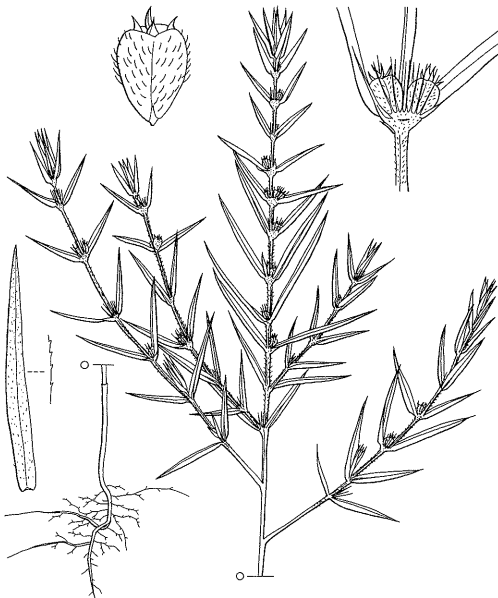
全国農村教育協会 広田伸七・桑原義晴・天野斗史子

有用植物か雑草かの区別は微妙である。同じ植物でもはえる場所によって有用植物になったり雑草になったりする。例えば今回取りあげたコウリントンポポがいい例である。花の咲いた状態がちょうど絵筆を思わせることから、別名でエフデギク（絵筆菊）と呼ばれるこの植物は、花を觀賞するためにヨーロッパより輸入されて花壇や庭に植えられ栽培された。この限りでは立派な有用植物である。ところがこの植物は盛んにほふく茎を伸ばして殖え、繁殖力が強いので、一度逃げだして耕地などに入り込むと、防除が困難となり、しまつに困る害草となってしまう。かつてアメリカでも草花用として輸入したものが次第に野生化し、各地にはびこって悪性の雑草（害草）となった例がある。

帰化植物のなかにはこうした例はいくらでもある。今回取りあげた帰化植物のなかにもこうした可能性を持った草種もある。今後注意深く見守っていききたいものである。

帰化植物のなかにはこうした例はいくらでもある。今回取りあげた帰化植物のなかにもこうした可能性を持った草種もある。今後注意深く見守っていききたいものである。

オオフタバムグラ〔アカネ科〕*Diodia teres* Walt.



1年草。生育期間4～10月。

北アメリカ原産の帰化植物。砂地を好み、海岸や海沿いの草地、耕地、河川敷などに多く見られる。茎は分枝して株になり、高さ10～30 cm。刺状の毛がある。葉は対生し、葉柄はない。細長い線形で先が尖り、両面に硬い短毛があり、特に縁には刺状の硬い毛がありざらつく。托葉は左右のものが合着して茎をとり巻き、上のへりに数本の刺がついている。7～8月に各葉腋に淡紅色ときに白色の小さな花が咲く。花は柄がなく、花冠は先が4裂する。果実は橢円状で硬い刺があり、上部に4個のがく片がついている。熟すと2個の分果に分かれる。

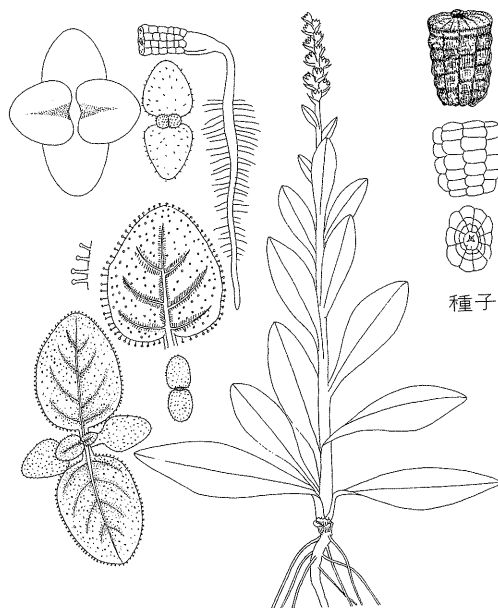
〔生活型〕 Th R₅ D₄ b

ビロードモウズイカ〔ゴマノハグサ科〕*Verbascum thapsus* L.

越年草。生育期間11～9月。

ヨーロッパ原産の帰化植物。鉄道沿線や道ばた、空き地、川原などに多く、北海道西南部では耕地にはえて害草となっている。北海道、本州で見られる。幼苗は秋に発生し、根出葉を放射状に広げた形で越冬する。根出葉は長楕円形で大きく、厚みがあり白い毛が密生していて、さわると柔らかい布の感じがする。春に太い茎が立ち高さ80～150cmにもなる。茎の葉にも白い毛が密生して白っぽく見える。夏に茎の先に穂状に黄色の花が多数咲く。花後に球形の果実がつく。葉が柔らかく、毛が密生していてさわるとビロードの感じがするのでこの名がある。

〔生活型〕 Th (w) R₅ D₄ Ps

ツタバウンラン〔ゴマノハグサ科〕*Cymbalaria murdis* Gaerth., Mey et Scherb.

1年草。生育期間4～9月。

ヨーロッパ原産の帰化植物。園芸植物として大正初期に渡来し、ロックガーデン用に植えられたが、逸出して野生化し北海道、本州の都会地周辺の道ばたや石垣の間、ブロック塀のすき間などに生育するのをよく見かける。茎は細く、つる状になって地上をはい長さ10～40cmになる。茎のところどころから不定根を出す。葉は互生し、長い葉柄があって、葉身は掌状に5～7に浅く裂ける。全体無毛。春から初夏に各葉腋から花柄が伸びて、先に白色～淡紅色で暗紫色のすじのある花を多数咲かせる。花はきれいでよく目につく。

〔生活型〕 Th R₄ D₄ P



アメリカアゼナ〔ゴマノハグサ科〕 *Lindernia dubia* Pennell

1年草。生育期間5～10月。

北アメリカ原産の帰化植物。水田や水路、溝、休耕田などに生育するが、特に水田に多く強害草となっている。場所によっては在来種のアゼナよりも多く発生している。茎は四角柱状、葉は対生。全体はアゼナに似ているが、アゼナは葉に鋸歯がなく全縁で、葉柄がなく、葉の基部が茎を抱くような感じなのに対し、アメリカアゼナは葉の基部が葉柄状に細くなったり（Cタイプ）、基部が細くならないが縁に粗い鋸歯があるもの（Rタイプ）と2系統があるが、いずれも葉柄状になったり、鋸歯があることで区別できる。6～8月に葉腋から花柄を出して花が咲く。

〔生活型〕 HH (Th) R₅ D_{1,4} b-p

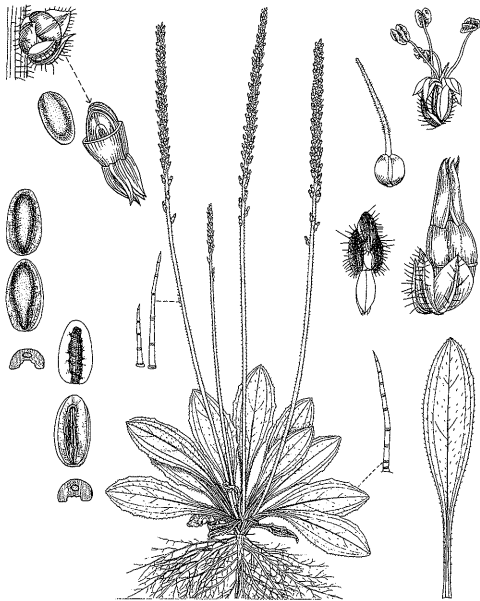


ツボミオオバコ〔オオバコ科〕 *Plantago virginica* L.

1～越年草。生育期間10～8月。

北アメリカ原産の帰化植物。畑地、庭、道ばた、空き地などに生育し、本州の関東以西、四国、九州で見られる。多くは秋に発生し、根出葉は重なり合うようにして多数つき、放射状に広げて越冬する。根出葉は長楕円形で葉の基部は柄に流れる。縁に突起状の鋸歯があり、白色の毛が密生し、さわるとざらつくのでオオバコとは簡単に見分けがつく。5～7月に根もとから数本の高さ10～30cmの花茎を出し、黄白色の花を穂状に密につける。全体はオオバコに似ているが、オオバコは無毛なのに対し、本種は葉や花茎に白毛が密生しているので区別がつく。

〔生活型〕 Th～Th (w) R₃ (v) D_{2,4} r

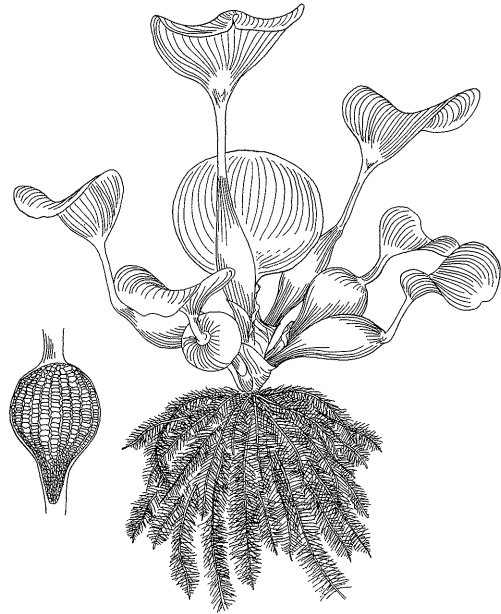


ホテイアオイ〔ミズアオイ科〕*Eichhornia crassipes* Solms-Laub.

多年草。成長期間 5～10月。

熱帯アメリカ原産の帰化植物。観賞用として栽培されたものが逸出して野生化し、繁殖力が旺盛で暖地では水田や池、水路などに大群落をつくって害草となっている。本州中部以西から四国、九州で見られる。水面に浮かんで根もとからひげ根を出す。親株から四方にほふく茎を出し先に新しい株ができ、その株からまたほふく茎を出して殖えるので短期間に増殖する。葉は束生し、葉柄の中央に倒卵形にふくらんだ浮袋があって水面を浮遊する。8～10月に葉の間から1個の茎が出て総状花序がつき、径3cmぐらいの淡紫色の花が咲く。

〔生活型〕 HH R₄ D₁ Ps

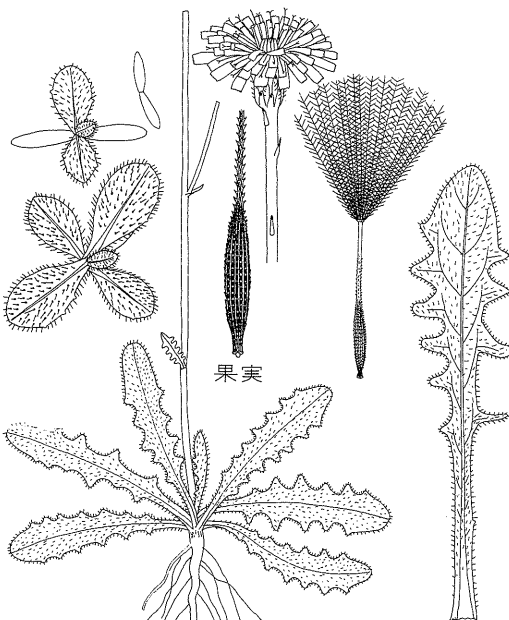


ブタナ〔キク科〕*Hypochoeris radicata* L.

多年草。成長期間 5～9月。

ヨーロッパ原産の帰化植物。北海道に特に多く道ばた、草地、空き地などいたる所で見られるが、最近では本州でも各地に見られ、特に高速道路沿いに多い。全体が一見タンポポに似ているが、根出葉は厚みがあり、葉の羽状切れ込みがタンポポ程鋭くなく、表面と縁に白色の毛が多くざらつき、裏面は無毛。茎の葉は小さい。6～7月に花茎が高さ60～80cmに伸び、上部が多数に分枝して、先に径3cmぐらいの黄色の頭状花が多数咲く。果実もタンポポより大きく、細長く、赤味を帯びる。冠毛は羽毛状で灰白色。風でよく飛散する。

〔生活型〕 H R₃ (v) D₁ r



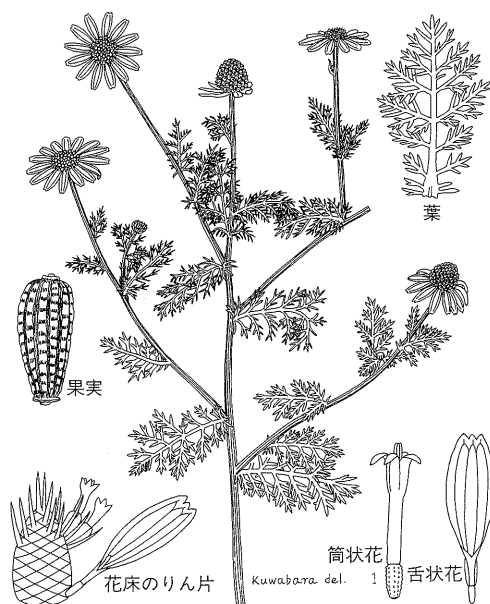
カミツレモドキ〔キク科〕 *Anthemis cotula* L.

1年草。生育期間5～10月。

ヨーロッパ原産の帰化植物。畑地や道ばた、空き地などに生育する。北海道、本州などで見られるが、比較的北海道に多い。全体に悪臭がある。茎はよく分枝して直立し、高さ20～40 cmになる。葉は互生し、2～3回羽状に深く切れ込み、裂片は細い。ニンジンに似た感じである。夏に茎の先が多数に分枝して広がり、枝先に径1.5～2.5 cmのやや大きい頭状花をつける。頭状花のまわりの舌状花は白色、中心の管状花は黄色で花はかなり目立つ。

花後、果実が集まったものが半球状となる。果実には冠毛がなく、縦に10個の脈がある。

〔生活型〕 Th R₅ D₄ e



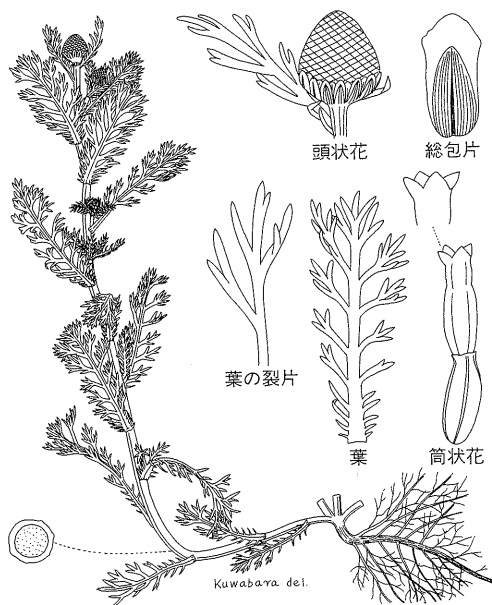
コシカギク (オロシャギク)〔キク科〕 *Matricaria matricarioides* Porter

1年草。生育期間5～10月。

アジア東北部原産の帰化植物。(注・正確ではないともいわれている)。北海道の畑地や道ばたなどに多く見られ、しばしば群生している。茎は根もとで多数に分枝して束生し、地表を横にはったり、斜上し、長さ5～10 cm。茎はほぼ円形。葉は互生し、羽状に細かく切れ込み、裂片は細くて無毛。緑色で質は柔らかい。

夏に茎の頂近くで少数の枝を分枝して、その先に1個ずつ頭状花をつける。頭状花は舌状花がなく、淡黄色～黄緑色の管状花だけからなり、全体が円錐形となる。果実には冠毛がなく、縦に4個の脈がある。

〔生活型〕 Th R₅ D₄ e

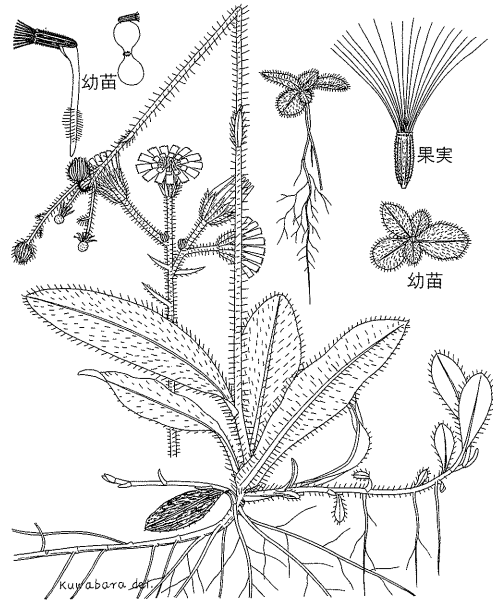


コウリントンポポ〔キク科〕*Hieracium aurantiacum* L.

多年草。成長期間 5～10月。

ヨーロッパ原産の帰化植物。別名エフデギクとも呼ばれ、観賞用として明治中期に渡来した。北海道には大平洋戦後にサハリンから渡来したといわれ、繁殖力が強く、現在北海道では道路のグリーンベルト、道路沿いの土手、空き地などに群落をつくって害草となっている。また、本州の関東以北でも見られる。葉は根生し、長楕円状倒披針形～線状倒披針形で全縁、両面と縁に粗い毛がある。花茎は直立し高さ10～30 cmで黒色の毛が密生する。夏に花茎の先に橙赤色の頭状花を10個内外つける。花は舌状花だけで径2.5 cm内外。ほふく茎を出して繁殖する。

〔生活型〕 Ch R₄ D₄ e

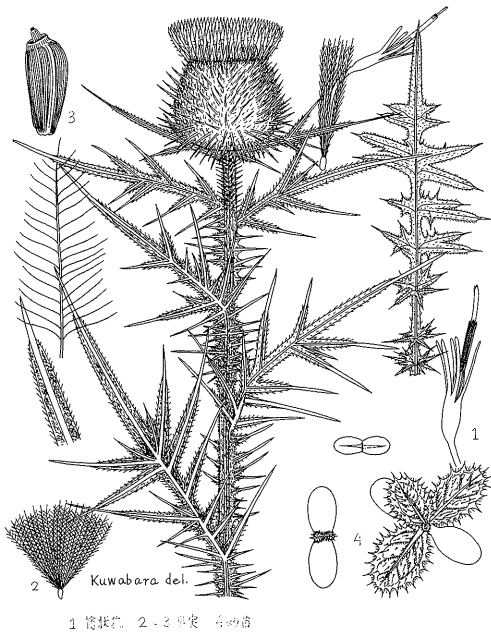


アメリカオニアザミ〔キク科〕*Cirsium vulgare* Tenore

越年草。成長期間 4～10月。

ヨーロッパ原産の帰化植物。荒地や道ばた、あき地、ときに畑地にも生育する。北海道に多いが最近では南下して本州の各地でも見られるようになった。茎は高さ50～100 cmで上部でよく分枝する。茎には著しいひれ(翼)があり、ひれには鋭い刺がある。葉は羽状に深く裂け、裂片の先は刺状に鋭く尖る。また、葉の縁にも鋭い刺がありさわると痛い。葉の表面は緑色で硬い毛が多く、裏面は綿毛が密生して白色。夏～秋に枝先に淡紅色のやや大きな頭状花をつける。花の総苞片の先にも刺がある。果実には冠毛があり、冠毛は白色で羽状に分枝する。

〔生活型〕 Th(w) R₃ D₁ Pr



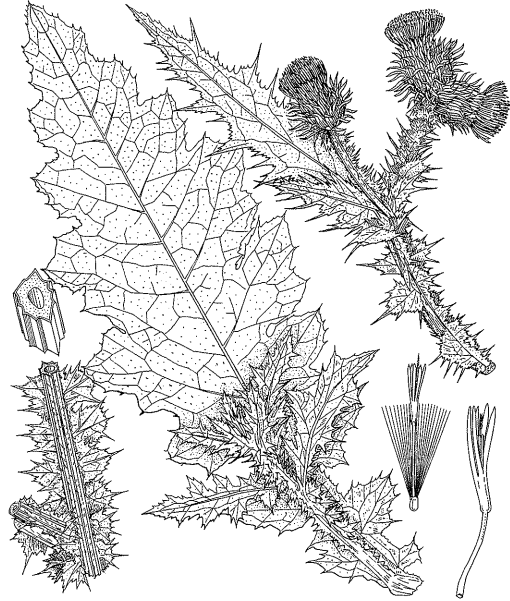
1 花頭花 2-3 果実 4 幼苗 5 葉縁

ヒレアザミ〔キク科〕*Carduus crispus* L.

越年草。生育期間 4～10月。

ヨーロッパ原産の帰化植物。道ばたやあき地、耕地の周辺、川の堤防などによく見られる。茎は高さ 1m 内外。葉が茎に沿下して著しいひれ（翼）となりひれには鋭い刺がある。このためにヒレアザミの名がある。葉は不規則に羽状に中～深裂し、鋸歯の先には長く鋭い刺がある。裏面は白いからみ合った毛に被われて白色。5～7月に茎の先に 1～3 個の頭状花が接近してつく。頭状花は淡紅色。総苞片は 4～5 列に並び先が反曲し、ちぢれた毛が多くある。花は両性の筒状花だけからなる。果実には白色の冠毛がある。冠毛は羽状に分枝しない。

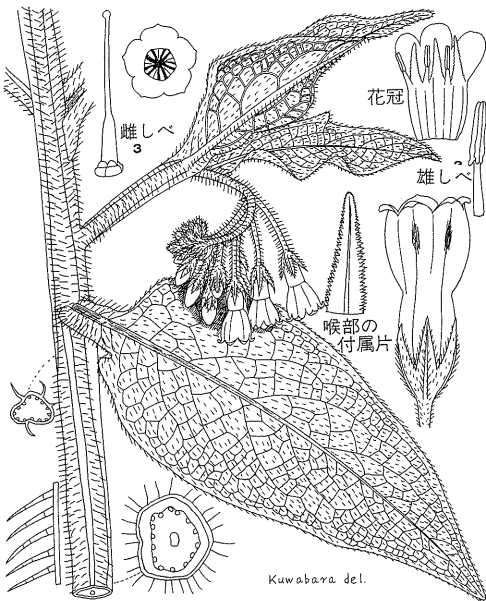
〔生活型〕 Th(w) R₃ D₁ Pr

ヒレハリソウ〔ムラサキ科〕*Symphytum officinale* L.

多年草。成長期間 4～9月。

ヨーロッパ原産の帰化植物。明治時代に渡来し、別名コンフリーとも呼ばれ、食用や薬用、牧草として栽培されるが、逸出して野生化した。最近では荒地、道ばた、耕地の周辺などになんまり多く見られるようになった。全草に粗い毛が多くある。茎はよく分枝し高さ 50～80 cm になる。茎には 4 条内外の著しいひれ（翼）があり、下向きの毛が多い。根出葉は大きくて長い柄があり、茎の中部以上の葉は無柄、葉の表面は濃緑色で質は厚い。夏に先がくると巻いた花序をつけ、下から順に開花して 10～20 個の花が咲く。花は下向きに咲いて、多くは淡紅色。

〔生活型〕 H R₅ D₄ Ps



ワスレナグサ〔ムラサキ科〕*Myosotis scorpioides* L.

多年草。成長期間4～10月。

ヨーロッパ原産の帰化植物。水湿地を好み、溝や水路、川岸などにしばしば群生している。株の茎部から走出枝を伸ばして繁殖する。茎には稜角があり、高さ20～50 cmになる。葉は下部のものは柄があり倒披針形、中部以上のものは長楕円形で柄がない。葉の両面には微細な毛がまばらにある。夏に花が咲く。花序は1本または2本に分岐するが分岐点には葉がつかない。花序の先はくると巻いていて、花が咲くにつれて伸びていく。花冠の径は7～9 mm、淡青色で、花がいっせいに咲くのでかなり目立つ。果実は楕円形で長さ1.5 mmぐらいと小さい。

〔生活型〕 HH R₃ D₁ e

マルバルコウ〔ヒルガオ科〕*Ipomoea coccinea* L.

1年草。生育期間4～10月。

熱帯アメリカ原産の帰化植物。観賞用の草花として渡来したが、逸出して野生化して、現在では関東・北陸以西の本州、四国、九州などの人家の周辺、道ばた、荒地などによく見られる。茎はつるになって伸び、地表をはったり、他物にからみついて伸び、長さ数mに達する。茎は無毛。葉は互生し葉柄があり、卵形で先が尖り、基部は心形で各側に1～2個の角がある。葉も無毛。葉には変化が多い。7～8月に葉腋に花序を出し、径2 cm内外の花を数個つける。花はロート形、先は上から見ると五角形で朱赤色、中心部は黄色。果実はアサガオの果実に似ている。

〔生活型〕 Th R₃ D₄ ℓ

